

予測を超えたリスクにも十分対応できる
支払余力を確保しています。

ソルベンシー・
マージン比率 **747.9%**

ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株価の暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。平成15年度末のソルベンシー・マージン比率は747.9%と十分な支払余力を確保しています。

健全な経営を維持していくための
十分な純資産額を備えています。

実質純資産額 **2兆6,877億円**

実質純資産額とは、時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いた、いわゆる時価ベースの純資産額で、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。平成15年度末の実質純資産額は2兆6,877億円で、一般勘定資産に対する比率は10.9%と十分な水準を確保しています。

保険本業において安定した収益力を
有しています。

基礎利益 **4,627億円**

基礎利益とは、保険本業の期間収益の状況を表わした、生命保険会社のフローの収益力を示す指標の一つです。平成15年度の基礎利益は4,627億円と十分な水準を確保しています。

財務の健全性と収益力で、
みなさまの信頼にお応えします。

逆ざやについて
生命保険会社は、ご契約者にお支払いいただく保険料の計算にあたって、あらかじめ資産運用による一定の運用収益を見込み、その分保険料を割り引いて計算しています（この割引率を「予定利率」といいます）。そのため、保険会社は、毎年割り引いた分に相当する金額（これを「予定利息」といいます）を運用収益などで確保する必要があります。ところが、かつてない超低金利が続くなかで、この予定利息分を実際の運用収益などでまかなえない状態が一部の契約で発生しており、これを「逆ざや」状態といいます。しかしながら当社は、逆ざやが生じていても、保険本業の期間収益を表わす基礎利益は、十分な水準を確保しています。

厳格な自己査定を実施し、
資産内容の健全性を堅持しています。

リスク
管理債権 **0.59%** (リスク管理債権額の貸付残高に対する比率)

リスク管理債権とは、貸付金のうち、返済状況が正常でない債権を「破綻先債権」「延滞債権」「3ヵ月以上延滞債権」「貸付条件緩和債権」の4つに区分した総称です。平成15年度末のリスク管理債権額は472億円、貸付残高に対する比率は0.59%と、きわめて低い水準を堅持しています。

バランスのとれた堅実な資産内容で、
十分な企業体力を堅持しています。

含み損益
(一般勘定資産全体) **1兆1,219億円**

含み損益とは、資産の時価と帳簿価額（取得価額）との差額を指し、保険会社の企業体力を表わすものの一つです。平成15年度末は、一般勘定資産全体で1兆1,219億円の含み益を確保しています。

当社は次の主要な
資産において、
含み益を確保しています。

平成15年度末
含み損益

国内公社債
1,454億円

国内株式
8,282億円

外国公社債
444億円

外国株式等
617億円

土地
543億円

※「基礎利益」は、平成15年4～12月の明治生命および安田生命と平成16年1～3月の明治安田生命を単純合算した数値を記載しています。